

愛は南から

継続は力なり カットボランティアを続ける南宇和理容組合

代表 吉村 則男のりおさん



ボランティア活動について語る吉村さん

容組合が合同で実施しているのは、県内唯一のことだそうです。「はじめは6人でスタートして、徐々に仲間が増えていききました。みんなが協力的なのでこれまで継続できていると思う」と、理容組合の代表を務める吉村則男のりおさん（御莊平城）は30年近くこの活動を振り返ります。

理容師になった理由

30年近く続く活動
南宇和理容組合では、年に1回、敬老の日を前に社会福祉施設を訪問してお年寄りの髪をカットするボランティア活動を行っています。組合に加盟する理容師のほか、平成10年からは南宇和美容組合の美容師も参加して、35名から40名ほどで実施しています。理容組合と美

職人に憧れていて、もともと理容師になりたかったという吉村さん。人を美しくするこの仕事に魅力を感じています。「感性の世界なので自分も磨かれる。一生勉強です。お客さんに満足してもらった時が一番嬉しい」とやりがい話します。現在の場所にお店を開いてから30年が経ちますが、理容組合の代表になったのは開店から3年後のこ

とです。現在は愛媛県理容組合の副理事長も務めています。

ボランティア活動の目的

理美容師が仕事を通じて社会に恩返しをすることと、社会貢献活動を通じた理美容師の社会的地位の向上を目的として活動しています。「よく仲間にも言うんです。地域で営業している以上、年に1回くらいは地域に還元しても良いだろう、と。仲間もそれを理解してくれています」と周囲の協力に感謝します。

お年寄りの反応

福祉施設に入所している方の中には、理美容師との触れ合いを楽しみにしている方も多々います。「カットしたらみんな喜んでくれて、また来てくださいます」と言われます。あまり外に出ることができない人もいるので、我々との触れ合いが刺激になっているようです。「と分析。確かな手応えを感じています。」

今後の展望

もともと周りを引っ張って活動することが好きだという吉村さん。「小さな町では必ずみんなどこかで繋がっている。いつも来店していただくお客さんと、施設でカットしたお年寄りが繋がっていることもある。そういう意味で日頃の営業の恩返しでもあるんです。継続は力なりで、これからも続けていきたい」と意気込みを語りました。



会員が協力してカットボランティアが行われている